

現状と課題

**藤島地域の人口減少が顕著**

- 平成32年には1万人を割込む見込
- 生産年齢人口、毎年700人ペースで減少
- 出生数、婚姻数とも市平均を下回っている
- 子育て世代の流出と高齢化の加速
- コミュニティの空洞化
- 魅力的な資源を生かしきれていない

**基幹産業の農業の停滞**

- 平成32年には農業就業人口1千人を割込む見込
- 平成32年には65歳以上の農業就業人口割合が6割を超える見込
- 規模拡大による農家数の減少
- 農業経営に対する意欲の低下が懸念される
- 水稲単作経営農家が多く米価に左右されがち

少子・高齢化と人口減少

藤島の強み

- 人と環境にやさしい農業の取組
- こだわりの米農家が多い
- 農業関連施設が集積している
- 伝統芸能活動が盛ん
- ふじにこだわったまちづくり

市民の意見

- 藤島地域振興懇談会
- 農業専門委員会
- 鶴岡まちづくり塾藤島グループ
- 各団体・組織等
- 「Hisu花」活用ワークショップ

これからの10年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点(9つの着眼点)

基本方針

1. 豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現
2. 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進
3. 暮らしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築

到達目標の設定

基本方針1. 農産物販売高1千万円の割合を20%にする。

基本方針2. 地域づくり活動への参加者数を前年より上回るようにする。

基本方針3. 人口減少率を前年より縮小させる。

藤島地域振興計画の展開方策

1. 豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現

- (1) 藤島発！！鶴岡の米プロジェクト
- (2) 藤島発！！園芸作物拡大プロジェクト
- (3) 食農教育等を通じたふるさと意識の醸成
- (4) 庄内農業高等学校・首都圏大学との地域連携の推進

15の施策と21事業を展開

2. 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進

- (1) ふじの花のライトアップとイルミネーション等による魅力発信
- (2) 住民協働によるふじ棚等の適正な維持管理の推進
- (3) 伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり
- (4) ふじの花による観光振興の促進

9つの施策と10事業を展開

3. 暮らしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築

- (1) 自立分散型インフラ整備の推進
- (2) 子育て世代から選ばれるための支援制度の充実
- (3) 健康でいきいきと暮らせるしくみづくり
- (4) 地域防災力の強化

12の施策と12事業を展開

各施策の具体的な事業が地域まちづくり未来事業となる